



わたしたちの暮らすまちの魅力と未来を考える ～多様な生き方を選べるまち～



地元で挑戦する人、地元から羽ばたく人。それぞれの立場で、自分らしく学び、働き、将来を選ぶことができる社会は男女共同参画の大切な視点です。本市では、誰もが自分らしさを発揮できるまちづくりを進めています。

■■■ このまちで生きる、このまちから羽ばたく ■■■

中村 駆さん



(令和7年度20歳のつどい実行委員長)
ポリテクカレッジ川内の電子情報技術科2年(取材当時)の中村さん。卒業後は東京の大手IT企業へ就職します。

Q. 実行委員長を務めた感想は？

A. 当日は委員長として挨拶をする予定が、インフルエンザに感染してしまい欠席。就職に向けての決意や、家族、友人、学校の先生方へ感謝の気持ちを伝えなかったのが、とても心残りでした。

Q. ジェンダーギャップを感じたことはありますか？

A. ジェンダーギャップを感じたことはありません。男女関係なく同じ環境で学んでいます。学ぶ機会は平等、就職先も男女比は半々と聞いています。これから一人暮らしが始まりますが、家事への抵抗もありません。

Q. これからの目標は？

A. 最先端のIT技術に触れられる環境で経験を積みたいと思い、東京の企業を選びました。薩摩川内市は自然が豊かで、また戻ってきたいと思える故郷です。



令和7年度20歳のつどい実行委員(前列右 中村さん)

大島 弘太郎さん

入来町で自然を生かした施設(ケンジーの森)づくりに取り組む大島さん。佐賀で海苔漁、北海道で建築の仕事での経験を経てUターン。

Q. 帰ってきた最大のきっかけは？

A. 「祖父から受け継いだ9,600坪の土地と再会」し、その圧倒的な自然の前に「ここでしかできないことがある」と直感しました。
自然や動物に触れることで心が整うという自身の実感を、多くの人たちに届けたいという使命感が芽生えたことがきっかけです。

Q. 薩摩川内市の魅力は？

A. 「挑戦を受け入れてくれる余白と温かさ」です。挑戦を温かく応援してくれる空気感があります。実際に、応援してくれました。こうした人とのつながりは、都会にはない最大の武器だと感じています。

Q. これからの目標は？

A. 直近の目標は、動物と自然を取り入れた就労継続支援B型事業所をつくることです。誰もが役割を持ち主役になれる、若者が憧れるような新しい形を全国に発信していきたいです。
将来的には様々な活動が混ざり合う一つの「村」のような場所へと育てていきたいと思っています。



若い世代が地元で働くことにワクワクできるまちにしたい!



自分らしい進路や働き方を選べる社会へ

理系分野で男女が共に学ぶ環境や、育児休業など働き方を重視した企業選びなど、若い世代の価値観は少しずつ変わってきています。「男女に関係なく学びや働くチャンスは平等」という若者の声で気づかされます。

性別にとらわれず、自分の能力を発揮できる環境は、地域の活力を高めるためにはとても大切なことです。

地域でつながる、みんなの居場所「地域食堂」

本市には、年齢や性別、障がいの有無などに関係なく、誰もが気軽に集まれるたくさんの「地域食堂」があります。子どもから高齢者まで、みんなで食事を囲みながら交流し、地域のつながりを深める居場所として活動しています。その中から2つの地域食堂をご紹介します。

●ちいき食堂 にじいろ●

「どなたでも気軽に参加できる地域の居場所」みんなでごはんを食べながら、ほっとできる、みんなが笑顔になれる、あたたかい場所。

- 場所: 可愛小学校正門前(御陵下町)
- 日時: 原則毎月第三土曜日(要予約)
- 料金: 18歳以下:無料/大人:300円



大切にしていることは?

「にじいろ」は、子どもから大人まで誰もが安心して集まれる居場所づくりを目指しています。特性をもつこどもたちや、色々な人が自然につながり、お互いを理解し合える地域の場にしていきたいです。

どんなことしてるの?

地域の方ももちろん、放課後等ディサービスを利用している子どもたちやそのご家族、友人の方々なども参加されています。食事を楽しむだけでなく、交流やおしゃべりを通して生活のちょっとした相談ができる場にもなっています。

どちらの食堂も、「みんな違ってみんないい」を地域で実感できる場所として、互いの多様性を尊重する交流の場となっています。

✿地域食堂 クローバー✿

「誰でも気軽に参加できる地域食堂」地域の方向士がふれあい、つながるあたたかい居場所。

- 場所: 水引地区コミュニティセンターほか
- 日時: 不定期開催
- 料金: 18歳以下:無料/大人:300円~



大切にしていることは?

子どもから高齢者まで、誰でも気軽に立ち寄れて、温かいごはんを囲みながら、ふれあい、つながるあたたかい場になればと思っています。

どんなことしてるの?

小中学校の運動会に合わせて開催したり、夏休みには「1日 Summer 食堂」として宿題、食事や工作・制作などの活動も実施しています。その他、朝食型や地域イベントに合わせた開催もあり、みんなが集まり、つながる機会をつくっています。



地域食堂の
詳細はこちら→



✿わたしたち〇〇やっています

みらいテラスメンター

私たちは、仕事・子育て・介護・日常生活など、身近なテーマについて語り合い、あたたかな対話を通して心がふっと軽くなる時間を過ごせる場づくりを目指し活動しております。一緒に語り合う中で生まれる「わからない」をきっかけに、日々の暮らしの中で心が少しでも軽くなるコミュニケーションのヒントを得られたとの声をいただいております。

5月より、下記活動拠点で定期的に活動します。



薩摩川内市原田町 28-5 090-1925-8522 (代表:内野)
mirai-mentor@gmail.com

♡相談窓口

①女性の相談窓口

と き: 月~金(祝日、休館日、年末年始を除く)
9時~17時
TEL: 070-2636-7763, 25-6056

②何でも無料相談室

と き: 毎週土曜日13時~16時
TEL: 25-6056 ※受付時間は15時30分まで

①②とも場所は男女共同参画センター (SSプラザせんだい内)

●配偶者等からの暴力

と き: 月~金(祝日・年末年始を除く)8時30分~17時15分
ところ: 市役所こども家庭課
TEL: 20-6343(直通)

●よりそいホットライン

と き: 24時間対応
TEL: 0120-279-338

✍編集後記

ウォーキングをしていると色とりどりのランドセルを背負った小学生に出会う。「女の子は赤色、男の子は黒色」というように長い時間の中で構築された色に対する固定的なイメージが簡単に崩れるものではないが、ジェンダーバイアス(ジェンダーに関する固定観念)に捉われず「自分らしさ」で自由な色を選べる社会であって欲しいなあ。(H・I)

発行/薩摩川内市未来政策部コミュニティ課
編集/薩摩川内市男女共同参画推進実行委員会
問い合わせ先/〒895-8650

薩摩川内市神田町3-22

TEL: 0996-23-5111(内線4741)

FAX: 0996-20-5570

Email: diversity-shimin@city.satsumasendai.lg.jp

(令和8年3月発行)